

2021年3月じゃおサロン報告

3月28日（日）15:00から森憲一氏（フジテレビジョン ニュース総局メディアソリューション部長／文教大学 情報学部メディア表現学科 非常勤講師）をお招きして「情報はこうしてストーリー化する」というテーマで、ご講演いただきました。



講演はじゃおニュースで掲載された予告内容に沿って進められました。森氏の簡単な経歴紹介のあと、予告内容に沿って話がスタートしました。しっかり準備した内容を明瞭な口調とおだやかな表情でお話しされ、さすがにテレビマンという印象を持ちました。

講演の骨子は予告記事に書かれておりますので、そちらを参照にいただければと思いますが、本講演の主題は森氏曰く「情報がどのようにしてストーリー

化されるかについて具体的な事例をもとに論じながら、テレビメディアが容易に逃れることのできない性（さが）についても考えてみたいと思います。（中略）玉石混交の情報から本質を見抜くためのワクチンになれば幸甚です。」とのことですので、私がメモした内容をレジюмеに沿ってご報告いたします。

■ メディアによる情報の伝わり方

一事象を捉えてあたかもそれが全体的な傾向のような伝わり方をしてしまう。例としては、少年による凶悪犯罪があると報道頻度が多いため、あたかも少年犯罪が増えているように伝わってしまう。

■ なぜ人は情報にストーリーを求めるのか

ストーリーにすることにより理解が促進されて、具体性が増し共感が得られる。コロナ禍による著名人の死は、統計にない「顔が見える命」のため影響が大きかった。等

■ テレビメディアの性

強調を意図するための“〇〇〇にもかかわらず”、思い込みを促すために“いわゆる×××”というような憶測での表現をしてしまう。イクメン国会議員にもかかわらず不倫！

■ 「空気」の支配

ワンフレーズ（スローガン）により一部分が強調され、日本人が生み出す「空気」（同調圧力等）により、政界劇場が繰り返される。小泉劇場（刺客・造反）、村度政治（森友・加計問題）、自粛警察。

■ 情報とストーリーの親和性

災害報道におけるストーリー化により共感を呼ぶ。例えば「東北の人は我慢強い」という表現は世間からは共感を呼ぶが、東北の人からすると、他人のまなざしを感じる。親和性は本当にあるのか？

■ ドキュメンタリーは真実を伝える？

事実の断片をいくつも作り「切って貼る」のが編集。事実だけど真実ではないこともある。許される演出の境界線の判断は、マスメディアでは編集長の責任。

■ メディアは世論を操作する？

中国に対するマイナスの印象は本当の中国を知らない人の統計データによる。マスメディアと世論が一体となりイラク戦争へ突入。米大統領選は情報マーケティングそのもの。

■ 誰のための放送か

テレビの公平性・客観性を維持するには相対的・多角的な情報提供が必要。

大きな結論としては、我々も限られた情報で判断せずに多くの情報を取り入れて、その中から真実を見極めることが重要とのことでした。

(湘南 大出 佳和)

【事務局だより】

1. 会員動向

3月1日現在会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
39	36	33	30	138 (Eグループ会員：122名)

3月末退会者

齋藤 浩氏、松澤史郎氏(以上、湘南)、大森 甫氏、須藤宗敏氏、新保邦光氏(以上、県央)

関根 浩氏(ベイサイド)、田極 泉氏、竹内一正氏、村山幸作氏、守屋 隆氏(以上、多摩・田園)

4月1日現在会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
37	33	32	26	128 (Eグループ会員：114名)

2. 運営委員会報告

運営委員会は3月28日(日)にZoomによるオンライン方式で実施しました。協議事項は以下の通りです。

1) 新規入会者とその紹介者への優遇処置について

会員数を増やすため、新規入会者については初年度会費を無料にすること、入会者が次年度も継続した場合は、その紹介者にはその年度の会費を半額に、入会者が2名以上の場合は全額免除することとする。この案は総会に諮った上で2021年度より実施する予定である。

2) じゃおサロンの今後の取り組み方法について

当面は原則隔月に開催することとし、オンライン方式で開催するかオルタ館での開催にするかについてはその都度検討する。今後の開催についてはアンケート結果も参考にして決定する。

3) じゃおニュースの今後の取り組み方法について

じゃおニュースについては、今後、書体やレイアウト、ホームページ掲載を含めて検討する。

4) 第30回通常総会の開催プロセスについて

議案書等は4月25日(日)に発送し、5月9日(日)にオンライン方式で議案書の説明と質疑応答を行う。議決権行使は、電子投票(Google フォーム)と郵便投票を併用し、結果については5月19日(水)に報告することが決まった。

-
- 5) 第30回通常総会議案書(案)について
現時点で作成が完了している範囲の内容について、追加・修正を行った。
 - 6) 第30回通常総会議案書の発送作業について
発送作業に必要な事前準備資料とその担当者について確認した。
 - 7) 2月臨時運営委員会の資料及び議決内容の修正提案について
多摩・田園の定例会で出た意見を竹内委員が説明し協議した結果、運営委員会のオブザーバー参加者は参考意見を述べるができること、参加希望者や運営委員に意見を託したい会員には、事前に運営委員を通じて議案書を送付することが決まった。また、30周年記念の資料編についてはホームページの「じゃおニュース」でなく「会員ページ」に掲載することになった。

次回の運営委員会は5月23日(日)10時～12時、オンライン方式で開催する予定です。

なお、当分の間、健康体操とじゃおサロン後の懇親会は行いません。

歴史随想(日本人のお名前)

多摩・田園 萩原 康平

NHK の番組に「日本人のお名前」というのがあり、筆者は毎回楽しみにしてこれを見ている。それにしても日本人のお名前は実に数が多く、中にはまともに読めないような奇妙な姓があり、それぞれにちゃんとしたいわれがあるのには感心することも多い。

以下は日本人の姓名についての筆者の知る限りの情報である。

1. 姓と苗字は別物である。

現在は日本人に二つの姓を持つ人はいない。(注 芸名のようなものは別) しかしながら歴史的に日本人は姓と苗字を使い分けていた。日本人の姓は「源平藤橘」といわれるように4つしかない。いずれも天皇家より下賜されたもので平安末期より、これはという名のある人はいずれも苗字のほかに自分が源氏か平氏か藤原氏かを明らかにしていた。(注 橘氏は平安初期に藤原氏によって衰亡させられた。)

では苗字というのは何かということであるが、鎌倉時代の武士にとっては自分の支配している土地の名前が苗字となった。頼朝の妻女、政子の実家「北条氏」は伊豆の長岡の近くの北条が支配地である。しかし政子は後に朝廷から従二位の地位を贈られたが、その時は、「平 政子」として授爵している。(北条氏は桓武平氏であり、またこの時代は夫婦別姓である。) 苗字がこのようなものであるから、親子・兄弟で苗字が異なることはざらにあった。

朝廷の貴族達も藤原氏ばかりでは区別が付かなくなって、鎌倉時代初期に屋敷の所在地によって、近衛・九条・二条・一条・鷹司といった分家の名を名乗るようになっていった。(五摂家と称され摂政・関白を独占した藤原道長直系の子孫の家)

藤原氏一族には、平将門を討ち取った藤原秀郷の子孫が関東武士として大勢力となり、多くの武人を生んだほか、藤原氏の子孫の苗字は、後藤・加藤・伊藤・佐藤など多くの氏族を生んだ。

2. 何故、日本人の女性の名前が伝わっていないのか？

名前についてすべて記述することはこのページ数では無理なので、ここでは女性の名前の謎について述べたいと思う。日本の歴史を学んでいて不思議に思うのは有名人と思われる女性でもその本名がほとんどわからないことである。

例えば平安時代の女性を見ても、清少納言・紫式部などと呼ばれていて(おそらく父親の役名からの呼び名) 本当の名前は全くわからない。それぞれ日記を残しているのだからどこかに「何子さん」と呼ばれたなどという記述が出てきても良いと思われるがそれは全くない。ただ二人が仕えた二条天皇の妃(それぞれ別の妃に仕えている)は実名がわかっているがそれはそれぞれ官位を有しているためだろうと思われる。

女性の名前が伝わっていないのは、女性が相手(特に男性)に本当の名前を伝えることが相手のものになることを承知したことになるのでタブーになったという学説もある。理由はよくわからないが、中国およびその文化を継承した我が国のこれはという家の残された系図をみると、女子の名前はただ「女」と記されているだけでほとんど本名が不明である。

何かおかしい

湘南 高野 昌純

コロナ騒ぎが始まってから1年が過ぎようとしている。この間、殆どの行事が中止になり、友人や知人と一緒に何かやることもなく、旅行することもなく、自宅で過ごす時間が多く、我が人生で最もフラストレーションとストレスのたまったつまらない一年であった。お金を使う機会がないためこんなにお金を使わなかった年はない、私は家で酒を飲むことは無く専ら付き合い酒なのだがこの1年間はその機会がなく胃にアルコールが届いていないため、私の胃はびっくりして主人はどこか具合が悪いのか、禁酒しているのかと思っているに違いない。人間は他の人と交わることによって刺激を受け成長する。他人と直接会って話が出来ない状態が続くことは自己を保つのが難しくなる。普通であることが如何に大切であるか思い知らされた一年であった。コロナは人の口から出る飛沫によって感染するのであるから人と話す時はマスク着用、飛沫が付いている物に触れる可能性があるので手指の消毒をする、飲食店では各テーブルの前と左右にアクリル板を設ける、この3点をきちっと励行すれば外出自粛、ホームワーキング、ソーシャルディスタンス、飲食店の時短等は必要ないと思うのであるが医療専門家は執拗に要求している。3点以外のことをやるとやらないとではどれだけ感染率に差が出てくるのだろうか。差があるとしても社会・経済活動を抑制してまでやる必要があるだろうか。

ワクチンの接種も始まっているのだから3点だけきちっと守ってコロナと共存してゆけば良いと思う。私は店舗に入るときは入口でマスクをつけ、出てからははずす、電車に乗るときは改札口に入るときマスクをつけ、出てからははずす。それ以外は一切マスクをしない。コロナウイルスは飛沫により飛び散るものであり、花粉のように空気中にそれ自体浮遊しているわけではないのに99%の人は一人で歩いている時ですら几帳面にマスクをしているのには驚く。また、レジの順番待ちで距離を空けて並んでいるが飛沫は前の人の背中から飛んで来るわけではないのです。何かおかしい意味のないことをやっていると思いませんか。

話題はがらりと変わりますがもうひとつ何かおかしいと思うことがあります。オリンピック・パラリンピック組織委員会の森喜朗前会長は「女性が沢山入っている理事会は時間がかかる」と発言したため女性蔑視であるとの批判が内外から集中し、引責辞任に追い込まれたのはご承知の通りです。しかし、この発言のどこに女性蔑視が読み取れるのでしょうか。言う必要はなかったと思いますがこの発言は事実そのものであり、的を得たものであると思う。目くじら立てて批判することではない。男は用件のみで済ますのに対し、ダラダラ長話するのは女の性と言うものです。女の長電話は男性なら誰も認めることであり会議でも同じでしょう。森氏は“この発言の何をもって女性蔑視というのか”と聞き直したら良かったと思うのですが心の中に女性蔑視の気持ちがあったからだろうか批判をすんなり認め、謝罪したが批判の対象はあくまで発言に表現された文言に対してなされるべきであり、その裏にあるものを深読みして問題にするのはおかしいのです。心中秘かに抱く感情や思い自体を咎めることは出来ません。この発言に抗議して約1,000人のボランティアが辞退したそうであるが妙な正義感を振り回しているように感じてならない。

これをきっかけに女性差別の問題に改めて注目が集まるようになった。世界経済フォーラムの最新の男女格差報告書によれば日本は153ヶ国中121位であり、男女平等が極めて遅れていることを示している。これは女性の政治参加度が低い、民間企業や官庁などで女性管理職の割合が低い、男女の賃金格

差がある等によるものである。男性優位主義が日本の社会に根強く残っている証左である。

国も企業も女性の地位向上、女性が働きやすい環境造り等に躍起になっているがこの順位は 80 位が最高で以後は 100~110 位台で下位低迷を続けており改善の兆しが見られない。

男性の意識改革が必要なことは言うまでもないが女性側にも責任なしとしない。重い責任を負うより上位のポジションに就きたがらない、総合職の資格があるのに一般職を選ぶ、腰掛的な気持ちで仕事をする、専業主婦願望の女性が少なくない。

コロナ禍での体力維持は農園のおかげです

多摩・田園 高橋 孝

コロナ感染防止のため三密を避けた行動が求められ、日々の生活が制限される中、活動できたのが農園でした。多摩田園の「楽しい農園」は昨年 3 月から昼食会が中止となり農作業だけとなりましたが、定例会は 11~12 人、特別作業日は 6~7 人が集まり、黙々と作業をこなし、心地良い汗がストレス発散と体力維持にひと役です。



春から夏にかけてはジャガイモ・大根・枝豆・ミニトマト・キュウリ・スイカの栽培、里芋・さつまいもの植付け、エンドウ・玉ネギ・ニンニクの収穫を楽しみました。ミニトマトはカップ麺の空き容器利用の種からの栽培で自宅時間の暇つぶしにひと役です。

秋から冬は里芋・さつまいもの収穫、ブロッコリー・芽キャベツ・大根・ほうれん草・春菊の栽培、スナップエンドウ・絹サヤエンドウ・玉ネギ、ニンニク、そら豆の植付けで来春の収穫が楽しみです。春のミニトマト育苗に気を良くして、ブロッコリー・芽キャベツ・

玉ネギの育苗にチャレンジしましたが、玉ネギはセルトレー(ひと穴に一粒)を使ったせいか育ちが良くありません、みんな一緒のカップ麺空き容器育苗がいいのかな? 今期初トライのブロッコリー・芽キャベツが 1~2 月も緑を楽しませてくれました。(写真はジャガイモの植付けをする筆者)

朝夕の愛犬(ジャーマンシェパード雌 8 歳)との散歩を含めて、体力維持目標の BMI22 以下(肥満度を示す体格指数)、体重 54 キロ±1 キロをキープしています。

まだしばらくは行動制限が続きますが、引き続き農園を楽しんでまいります。

「きつね」と「たぬき」

多摩・田園 竹内 純一

私は麺類が好きだ。特に温かいうどんが好物で、時々自宅で「うどん」を手作りする。もちろん、粉からうどんを打つわけではなく、うどんだしと具を作るだけではあるが……。メニューは「きつね」、「たぬき」、「鳥南蛮」、「天麩羅」などだが、一番多いのは「きつねうどん」だ。「きつねうどん」は、日本全国どこでも、うどんの上に甘辛く煮た「お揚げ」を乗せたものと決まっている。

これが「たぬき」となると土地土地で変わる。私が生まれた京都では「たぬきうどん」と言えば、うどんの上に甘辛く煮た「お揚げ」を刻んで乗せ、だしを「あんかけ」にしたものを言う。「きつねそば」は、「きつねうどん」の麺が蕎麦に代わったもの、「たぬきそば」は「たぬきうどん」の麺が蕎麦に代わったものだ。

さて、話は今から50年近く前、私が20代だった頃に遡る。就職して大阪の事務所に勤務が決まったとき、大阪では「きつね」と「たぬき」が京都とは違うのだと教えられた。ある時、職場で出前をとろうと話がまとまり、私が京都のそれを思い浮かべて「たぬきうどん」と注文したら、先輩からうどんに「たぬき」はないと言われて驚いた。大阪では「きつねうどん」の麺を蕎麦に変えたものを「たぬき」と呼んでいたのである。つまり、大阪には「きつねそば」「たぬきうどん」は存在しないのであった。

さらに、大阪独自のものとして「きざみうどん」がある。これは味付けせず、油抜きだけした「お揚げ」を短冊状に刻んだものがのっている。きつねうどんに比べて甘味が加わらないだけに、うどんだしの風味を楽しめるのが特徴である。

「きつね」と「たぬき」、京都と大阪、わずかな距離なのに、呼び名が異なるのは「狐と狸の化かし合い」のようなものかと思う。

さて、東京に転勤した際、「たぬき」がさらに姿を変えているのを知った。ご存知の通り関東の「たぬき」は「揚げ玉」を乗せたものである。ちなみに、関東の「たぬき」と同じものは関西では「ハイカラ」と呼ばれる。

時に、京都ではきつねうどんやたぬきうどんのお揚げは短冊に刻んだものを、ネギは九条ネギを使う。大阪とは違い、麺もやや細めで柔らかいのが特徴である。さらに、「たぬきうどん」には、すりおろしの生姜が天盛にしてあり、寒い季節にいただくとう身体が温まることこの上ない。

我が家は、私が京都の、家内が大阪の出身である。それで、夫婦共に、関西風のうどんが恋しくなる時がある。最近「讃岐うどん」の全国チェーンが増えたが「讃岐うどん」は京都や大阪のうどんとは、麺もう



どんだしも違うのである。それで、うどんだしを手作りし、時には「お揚げ」も自分で煮る。残念ながら京風の麺は入手できないので、その時々スーパーで売っているものを使う。いつの頃からか、お揚げの短冊切りを止める時もあり、九条ネギが入手できない時は分葱やネギの小口切りを使うこともあるが、それでも慣れ親しんだ味が気に入っている。(写真は手作りした京風たぬきうどん)

市民活動紹介展示パネル

2月7日、市民活動プラザむつあい主催の「広報媒体を知る講座」に島村様、小坂様と私で参加致しました。広報には、掲示物、配布物、web等、色々な媒体がありますが、今回の活動はポスターを作成して、湘南台駅地下通路広場にパネル展示をして、広報の体験をするというものでした。

私たち「じゃおクラブ湘南」もPR活動の一環として参加することに致しました。展示ボードの右半分に会員勧誘ポスター、左半分に活動写真を貼る構成を考えたのですが、展示ボードのサイズが180×120cmと大きく、又製作期間が短く予想以上に苦勞致しました。



まずは、右半面用のA1サイズでのポスター製作。農園での全体写真や、キャッチフレーズ、又吹き出しデザイン等を織り込みパソコンに入力し、拡大コピーしたものを貼り合わせて作って見ましたが、3週間の展示期間に耐えられるか、剥がれ等の色々な問題が懸念され、結局業者にデータを持参し、半光沢紙で印刷しA1サイズのポスターを完成させました。

次に、左半面用には各活動の様様を写した写真を模造紙に貼り付けて作成しました。右半面、左半面のいずれの写真も「第13回地域活動見本市」用に紹介ビデオを作成したときのものを利用いたしました。2月19日、いよいよ展示！！ポスター下にチラシの袋を取り付けて展示スタートとなりました。

湘南台駅は、小田急線、相鉄線、地下鉄と三路線が入っており、多くの人利用しています。しかし今回の展示場所は少し奥にあり、なかなかその場所まで足を運んでくれる人は少なく、3週間、毎日チラシの補充に行ったのですが、残念ながらチラシは8枚しか減っていませんでした。

今回の展示の結果を、会社時代に広報係をしていた先輩に報告をした所、「広報の原点は『ロコミ』と『呼びこみ』だ。駅のベンチで休憩している中年男性になぜチラシを見せて、ポスターの展示場所へ誘わなかったのか。『広報の原点』を知らない。広報係は失格だ。」と厳しい教訓を受けてしまい、ただただ、反省！反省！の幕引きと成りました。

今回製作致しましたポスターが、又何かの機会に展示され、少しでもお役に立てればと祈りながら保管させていただきます。

ポスター製作にご協力戴きました皆様、本当に有難うございました。

(湘南 古岡 實 記・写真)

グラファーズ撮影会～快晴の下、梅を撮る～

3月3日(水)は一日遅れのグラファーズの撮影会でした。グラファーズの撮影会は毎月第1火曜と決まっていますが、荒天で1日延期したのです。

今回の行き先、府中市郷土の森博物館は自らを「フィールドミュージアム」と名乗っているように、一般的な展示に加えて、復元された明治時代の建物や、屋外の遺跡、プラネタリウムがあります。それらが広大な敷地内に配置されており、さらに、梅や桃、あじさい、ハギなど季節ごとに様々な花が見られます。

2月後半から3月初めにかけては、約60種、1,100本の梅が咲きます。この日は、少し寒いけれど、雲一つない快晴でした。残念ながら早咲きの梅は終わっていましたが、全体の7割を占める中咲きの梅が満開で、あたりには梅の香りが漂っていました。白梅や紅梅、一重、八重、芯が紅いものや緑のもの……、たくさんの梅を堪能しました。

水辺では、ネコヤナギの花が太陽を受けてキラキラと光っていました。「きれいだなあ」と写真を撮っていたところ「北海道ではネコヤナギが良く見られる」と聞かされました。実は、後から、ネコヤナギは日本全国に広く分布しているとわかるのですが、改めて「スマホを使って、その場で調べられるとは便利な世の中だなあ」と感心しました。

園内では、焼きおにぎりや串焼き、ラーメンやうどんなどを販売しています。寒い日に温かい食事を摂ることができるのはうれしいですね。ビールやお酒も売っています。お酒は「こうづる」という府中の地酒でした。こんな形で地産品が販売されているのは好感が持てます。この日は、店内での飲食は避け、間隔をとって屋外の椅子に座って昼食を済ませました。



(写真：階段を利用した雛飾りの前で記念撮影)

もちろん、グラファーズのメンバーはしっかり、作品を撮っています。コロナ禍で外出を制限される日々が続きますが、今後も機会があれば、感染対策をしっかりと出かけたくなります。

グラファーズの作品はホームページをご覧ください。<https://jaoclub.com/tamaden/jao-graphers/>

(多摩・田園 竹内 純一 記・写真)